

映画『ショーシャンクの空に』の主人公の魅力を解き明かす：Katzが唱えた3つの基本スキルの視点から

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 悟 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4384

映画『ショーシャンクの空に』の主人公の魅力を解き明かす —Katz が唱えた 3 つの基本スキルの視点から—

高橋 悟

1. はじめに

1994年に劇場公開されたアメリカ映画「ショーシャンクの空に」は、四半世紀を経た今日でも極めて高い国際的評価を得ている。全世界で月間2億5000万人が利用しているインターネット・ムービー・データベース社(IMDb)のウェブサイトによれば、同社の映画部門ランキングにおいて、本作品は2018年10月末現在で第1位の座を堅持している。同社が提供する映画数が500万本に及ぶことを踏まえれば、その人気がいかに傑出したものであるかを理解することは容易であろう。

この作品には様々な特徴や仕掛けが埋め込まれているが、本作品全体の人気を支えているのは何とんでもアンディ・デュフレーションという主人公が持つ人間的な魅力であろう。その魅力を解き明かすため、本稿ではKatz(1974)が唱えた3つのスキルの視点からアンディの言動を分析し、それらのスキルを彼がどのように駆使しているかをつまびらかにする。これにより彼自身の魅力のみならず本作品全体に対する高い評価の内実に迫ることが可能になると考えられる。

なお、Katzの3スキルの視点から本作品や主人公について批評・論考した文献は、管見の限りでは国内外で見当たらず、よってこの視点の採用そのものが類の無い試みといえる。

2. 「ショーシャンクの空に」のストーリー

本作品は無実の罪でメイン州のショーシャンク刑務所に投獄された若き銀行家アンディが最終的に脱獄を成功させる物語である。ある夜、彼は酩酊し妻と間男を銃で撃ち殺した罪で終身刑を言い渡される。彼は刑務官らの理不尽な仕打ちや他の囚人たちからの暴力に耐え忍びつつ、持ち前のスキルを活かし、刑務所内における自らの地位を徐々に高めていく。その過程におい

て着々と脱獄の準備を進め、19年後に見事脱獄を成功させる。入獄は1947年、脱獄は1966年であった。アンディは、服役中に法の抜け道を突いてランドール・スティープンスという人物を書類上で作り上げ、脱獄後はその人物となって生まれ変わり、メキシコ太平洋岸のジワタネホという町で第二の人生を送ることになる。その後、囚人仲間でアンディの無二の親友だったレッドが仮出所し、仮釈放違反を犯しながらもアンディを訪ねてバスを乗り継ぎ国境を越え、ジワタネホの白浜で感動の再会を果たすという場面でエンディングを迎える。

3. Katz が唱えた 3 つの基本スキル

1974年にRobert L. Katzは経営学の専門誌「ハーバード・ビジネス・レビュー」において、管理者(administrators)が備えるべき3つの基本スキルを提唱した。第一は技術的スキル(technical skill)であり、特定の職務に必要とされる個別具体的なスキルである。例えば外科医、会計士、エンジニア、ミュージシャンなどは、訓練や研修によってそれぞれの分野で固有の技術を後天的に修得し、その技術を活かして生計を立てたり多くの人々の役に立ったりしている。第二は対人的スキル(human skill)であり、自分と関わりを持つ人たちの性格や考え方、行動特性などを理解し、協力・協調して業務やプロジェクトを遂行するスキルである。第三は概念化スキル(conceptual skill)であり、自分が所属する組織や置かれた環境、あるいは社会全体の中で自らの立ち位置や役割、及びその意味や意義を把握し、どのような状況にあっても物事の本質を見極めることのできるスキルである。

以上がKatzの唱えた管理者が備えるべき3つの基本スキルであるが、高橋(2013)はこれらは管理者のみにあてはまるものではなく、教師にも十分に当てはまると主張している。先の技術的スキル、対人的スキル、概念化スキルは、教師が有するべき教育上の「専門性」、学習者・保護者・同僚と関わる「社会性」、自己を見つめ必要に応じて軌道修正する「自己省察力」にそれぞれ符合しており、各々は相互に影響し重なり合う部分を持ちながらも、自己省察力を駆動的基盤とし、三位一体となってより良く職務を遂行できるようになる状態(すなわち自身の成長)につながっていくと説明している。

その名称はともかく、これらは程度の差こそあれ、特定の職業や職責に留

まず、あらゆる個人が備えるべき横断的スキルの総称であり分類であると言えよう。高橋（2013）が提示した「教師の成長の構図」を参考に筆者がこれらの関係を改めて整理・作成したものが図1である。次節ではアンディがこれらのスキルをどのように刑務所内で発揮し、脱獄及び脱獄後の自己実現へと結びつけていったかについて考察する。

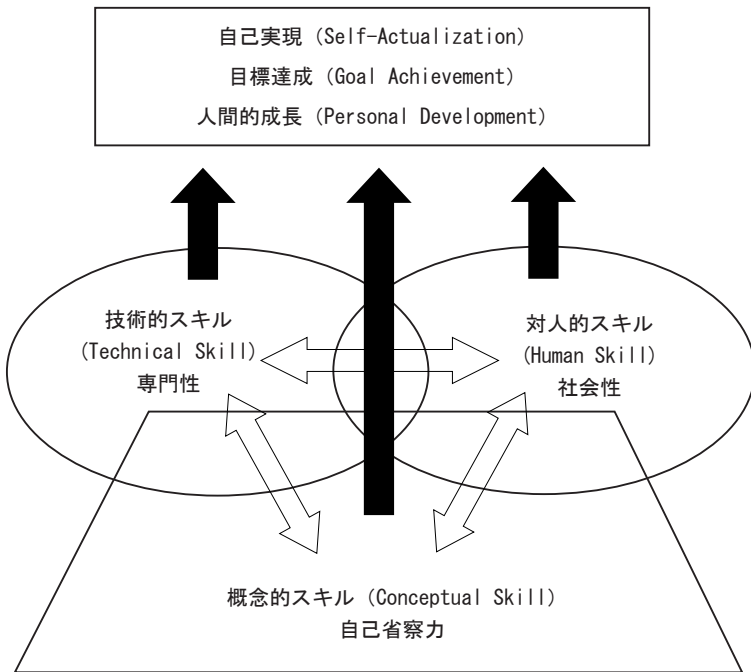


図1 自己実現と3つの基本スキルとの関係
(高橋2013の図を参考に筆者作成)

4. 考察

(1) 技術的スキル (Technical Skill)

入獄前のアンディはメイン州ポートランドの大銀行の副頭取であった。彼の強みは銀行家として培った税務・会計に係る専門性である。図らずも彼はそれを活かして看守主任の相続税免除の手続きをすることになり、続いて自分の刑務所のみならず他の刑務所の看守たちの所得申告までも手伝わされるようになる。また自分の子供の教育費を作りたいと申し出てきた一人の看守の相談にも親身になって応じる。さらに挙句の果てには、ショーシャンク刑務所の所長の汚職を通じた蓄財及び資金洗浄までもやらされるはめになる。

こうしてアンディは所長にとって資金管理アドバイザーのような役目を担うとともに刑務所内で一生を終えてもらわなければ困る存在となる。なぜならアンディが仮出所でもして所長の悪事を口外すれば、所長自身が投獄される身となってしまふからである。

このようにアンディは価値ある専門性を持っているがゆえに所長や看守たちから大いに利用されるのだが、その専門性のおかげで彼の刑務所内での処遇は次第に改善されていく。最初に目に見える良好な変化が起こったのは入所後2年が経過した時である。アンディの有能さを耳にした所長はアンディを洗濯係から図書室係へと格上げし、同時に看守主任に命令し、アンディに対して性的暴行を繰り返す囚人を文字どおり叩き潰し、二度と通常の刑務所に戻れない体にして囚人用病院へと送り出す。これによってアンディを物理的に襲う者は所内から完全に姿を消すこととなった。新たに図書室係になった彼はその後6年間、毎週州議会に手紙を送り、図書室拡充のための陳情を続ける。そしてついに同議会は根負けし、大量の書籍やレコード、小切手200ドルを刑務所に寄贈する。驚くべきことに、この時アンディは「たった6年で」と、想定よりも早く陳情が実ったことを喜ぶとともに「今度は週に2通書く」と即座に新たな決意をする。そして4年後にはなんと同図書室のためだけに州議会でも毎年500ドルの予算を計上することが決定される。これによりかつてはネズミの糞だらけの倉庫のようだったスペースがニューイングランド地方一の刑務所図書室に変貌を遂げるのである。

ここで留意すべき点は、アンディは税務・会計だけに精通していたわけではないということである。税務・会計はいわば社会全般に通底する仕組みであるが、彼はその根本となる知識やノウハウを持っていたがゆえに、世の中

がどのような構造になっており、どこに働きかければどのように動くかということまでも知悉していたと考えられる。寄贈図書類の受け取りはそれが結実した一例であろう。さらに物語の後半で、真犯人に間違いのない人物が存在することを知ったアンディは再審請求の手続き開始を所長に願い出るが、これもまた普通の囚人が一人で思いつくことでは到底ない。このように彼が有する技術的スキルは限られた専門性をはるかに越え、一般的「教養」を含む広範なものであったと考えられる。その証拠に彼は図書の分類法や鉱物、音楽、聖書にも精通しているほか、トミーという若い家族持ちの囚人に高卒資格を取らせるために学問の基礎を教授するとともに、最後は試験監督官まで務める。さらには刑務所内の様々な施設の構造までも把握し、脱獄決行日の夜が雷雨になることも正確に予測していたと考えられる。なぜならその時間帯に雷鳴が轟くことを知っていなければ、下水管を岩で砕く時に発生する大きな音をかき消すことはできなかったからである。

先に述べたように彼は自らの専門性を活かしてランドール・スティープンスという架空の人物をこの世に生み出すが、もともとその人物は、所長の汚職が万一発覚した場合にも、逮捕されないよう所長の身代わりとして書類上に存在させていただけであった。したがってアンディがまさか脱獄後にその人物になって生き切ることになろうとは、誰も思いつかなかったであろう。ここに作品中の登場人物のみならず、観客までもが虚を突かれた思いになるのだが、まさにそれこそが本作品の精巧な出来栄えと爽快感を増幅させる大きな要素の一つになっていると考えられる。

(2) 对人的スキル (Human Skill)

長身で瘦身のアンディは一見ひ弱で神経質そうな印象を与える。彼は収監された最初のひとは誰とも打ち解けようとしなかったが、ある午後、外部から密かに物品を手に入れることができる「調達屋」の囚人レッドにロックハンマーを注文する。それは退屈な刑務所の中で鉱物コレクターとしての趣味を復活させるためであった。レッドはやがてアンディの無二の親友となるのだが、初めてアンディと言葉を交わした時の印象を彼は「彼（アンディ）は気取って見えた。それもそうだ。物腰がこの連中とは違う。まるで公園を散策するかのよう歩いて」とナレーターとして述懐し、「俺は人間的に彼が好きだった」と続ける。

入所して2年を経たある日、先述のとおりアンディは看守主任の相続税免除の手続きを代行することを約束し、その見返りとして屋上で作業中の囚人仲間にビールをご馳走してもらうことに成功する。彼の勇気を通り越した無鉄砲とも思える行動に仲間は驚愕するが、同時に自分たちにビールを飲める機会を与えてくれたアンディに感謝する。これを機に彼らはアンディに一目置くようになり、彼の趣味がより充実したものになるよう良質の岩石を集めることに協力したりした。

その後もアンディは州議会からの寄贈物の中に「フィガロの結婚」のレコードを見つけ、放送施設から大音量で刑務所全体に美しい歌声を響き渡らせる。そんなことをしたら自分が懲罰房に入れられることは百も承知していながら、彼はすべての囚人の心をほんのひと時でも癒すことを願い、そのような利他的な行動を取ったのだと考えられる。懲罰房から戻ったアンディは仲間から温かく迎えられる。この頃には彼は刑務所内の誰からも特別な存在として認知され信頼されるようになっていた。

本作品は長年の刑務所暮らしに慣れ、むしろ出所して現実社会と接することに恐れを抱く主人たちの内面の葛藤も描いている。仮出所日が目前に迫り気が動転したブルックスという老囚人が、ヘイウッドという別の囚人にナイフを突きつけて騒ぐ場面があるが、この時にもアンディは持ち前の対人的スキルを発揮してブルックスをなだめ、ヘイウッドを救出する。その直後にアンディはブルックスに歩み寄り、顔を手で覆って泣く彼を優しく抱きかかえる。

このようにアンディは常に冷静でありながら温かい心の持ち主であり、危険を冒してでも人のために行動する勇気を兼ね備えていた。彼の優しさは脱獄前後にレッドに対して為された行為からも読み取ることができる。服役中、彼はレッドにジワタネホという（脱獄後にアンディが住む太平洋岸のメキシコの町）地名を告げ、レッドが仮釈放になったら郊外のバクストンという牧草地に行き、大きな樫の木の足元に置かれた黒曜石の下を掘るよう告げる。そして脱獄後、アンディはその場所に行き、レッド宛ての手紙とお金（旅費）を入れた箱を黒曜石の下に隠す。アンディがメキシコへと向かうのはそれからである。

冷徹に考えるならば、アンディがレッドに対してそのようなことをする義務は全くない。脱獄後はランドール・スティープンスとして速やかに銀行を

回って預金を下ろし、一刻も早くショーシャンクの地から遠ざかるほうが無難である。しかし彼は残された親友を思い、忠実に約束を果たした。さらにその後、フォートハンコックという国境の町からレッドに絵葉書を出し、文字は何も書かずに消印のみでそこからメキシコに入国したことを暗示する。これによりレッドはその町を目指して南下し、最後にアンディと再会することができるのである。

その他、アンディが看守たちからも愛されていたことを示す場面を二つ紹介する。一つ目は、州議会から最初に寄贈を受けた際に、看守も嬉しそうにアンディに微笑み、冷酷で卑劣な鬼主任が立ち去った後に「おめでとう」と祝福の言葉をかける場面である。もう一つは、再審請求への協力を拒否した所長に暴言を吐いたとして懲罰房に入れられたアンディが、食事を運んで来た看守に「(高卒資格取得試験を受験した)トミーが合格したぞ、よかったな」と教えてもらう場面である。報われた思いで満足げな表情をうつつらと浮かべるアンディの顔が暗がりの中でズームアップされる。

(3) 概念的スキル (Conceptual Skill)

概念的スキル、すなわち自己省察力は、技術的スキル(専門性)と対人的スキル(社会性)を方向づけ、その向上を推進する根源的なスキルであり、また自己を律するとともに状況に応じて軌道修正する力でもある(高橋, 2013)。アンディの概念的スキルは作品中の至るところで見られるが、俯瞰すると次の3つの点で大きく発揮されていると考えられる。

一点目は、自分自身の脱獄に関わるものである。彼は独房の壁の石質を分析し、ロックハンマーで穴を掘り続けると屋外に達するまでにどれくらいの時間がかかるかを冷静に計算した。またハンマーと穴をどのように隠すか、掘り出した瓦礫をどう処分するか、屋外に出た後にいかにして敷地外に出るか、運良く外界に出られたとしてもその後どのような服を着て、どのように逃走資金を得て、どのような交通手段でどこへ向かうのか、行き着く先ではどのようにして生計を立てるのか。こうした点を一つ一つ吟味しながら周到に脱獄計画を練り、地道に脱獄作業を進めていったと考えられる。つまり一口に脱獄といっても、長遠な展望を持ち壮大な絵を描かなければ不可能であり、それを成就させるためには極めて高度な概念的スキルが求められるのである。

二点目は、無二の親友であるレッドとの友情の維持についてである。アンディにとってレッドは獄中における戦友であり、良き相談相手であり、この世で最も心を許せる人間であった。アンディは脱獄後にジワタネホでホテルを開き、そこでレッドと共に働くことを明確にイメージしていた。彼は服役中にその構想をレッドにほのめかすとともに、レッドが仮釈放中に取りべき行動もつぶさに伝える。自身の脱獄だけではなく、それを実行に移す前からレッドのことまで視野に入れて計画を立てることもまた常人にはとても真似のできないことである。その後の絵葉書発送によるフォローは、レッドに対する継続的励ましであり、いかに彼が気配りのできる、メタ認知能力の高い人間であるかを端的に物語っているといえよう。

三点目は、囚人を必要以上に痛めつけ、時には死に追いやった看守主任と汚職の限りを尽くした刑務所長への復讐に関するものである。この点でもアンディは我が身の安穩に固執せず、大所高所から物事を判断し、悪事を働いた人間を然るべく懲罰する計画を立てる。彼は証拠品として不正帳簿等一式を新聞社に送付し、これが引き金となって看守主任は逮捕され、所長は自ら命を絶つことになる。しかしそうした結末に至ったのも、アンディがそれら文書類を丁寧にビニール袋の中に入れ、縄で自分の足にくくりつけ、460メートルもある狭い下水管の中を這い進みながらもそれらが濡れないよう工夫し、脱獄を遂げたからにはほかならない。それらはまさに足手まといであったが、彼の冷静かつ熱い正義感は、運搬の煩わしさに優ったのである。その理由は、悪人たちが刑務所といういわば社会から隔絶された「王国」の中で暴政を振るい続けることを彼の良心が許せなかったからであろう。先に記した絵葉書をレッドが受け取ったのはこの悪人たちが刑務所から姿を消してからのことである。アンディはそのタイミングを見計らってか、あるいはニュース記事でこの事件を確認した後で、刑務所関係者に自分が差出人であることを悟られないよう細心の注意を払い、絵葉書を投函したものと考えられる。

5. 結論

以上述べてきたとおりアンディの魅力の最大の源泉は、これら3つの基本スキルを自在に駆使できる力にあると考えられる。

本作品ではアンディの両親や兄弟については一切描かれておらず、彼の学歴もまた不明である。ただし若くして大銀行の副頭取に昇りつめたことを考

えれば、彼はもともと優秀だったのであろう。しかし社会的に高い地位に就いていたがゆえに、無実の罪で投獄され、それまでの人生とは全く異なる環境で生きていかざるを得なくなった彼のショックは相当なものであったと考えられる。

それでも彼は自暴自棄に陥ることなく、ささやかな趣味を持ち、自分の精神状態を平静に保つことを心がける。そして自らが有する技術的スキル（専門性）、対人的スキル（社会性）、及び概念的スキル（自己省察力）を最大限に活かし、囚人仲間にも尽くし、所長と看守たちにも尽くす。そうした利他的な行為をする過程において、彼らの信頼を勝ち得、秘密裏に脱獄作業を進め、最後に脱獄を成功させる。それだけでも「大偉業」といえそうであるが、そこで満足しなかったところにアンディという人物の本当の凄みと本作品の国際的高評価の理由があると考えられる。

すなわち、脱獄後アンディは所長らに速やかに復讐を果たすとともに、レッドと将来再会するための手立てを誠実かつ抜かりなく講じる。そしてメキシコに渡りホテル経営を始めるのだが、自分だけでなくレッドも将来にわたって生計を立てられるよう彼の才能・才覚に合った仕事を用意し、彼がいつの日か自分を訪ねてくるのを待つのである。この深慮遠謀の概念的スキルを基盤とした3スキルの複合体こそが彼の魅力の最大の源泉であり、本作品の魅力に直結していると考えられる。

その意味で本作品は、絶望的状况に置かれた一人の人間が3つの基本スキルを最大限に発揮して成し遂げる。壮大なキャリアチェンジの物語として観ることもできよう。それはまた逆境にあつて今を必死に生きるすべての人々に多くの示唆を与えるものであると考えられる。

参考文献

Internet Movie Database (IMDb). *Top Rated Movies*, Retrieved October 31, 2018, from https://www.imdb.com/chart/top?ref_=nv_mv_250

Katz, L. Robert. 1974. Skills of an Effective Administrator. *Harvard Business Review*, 52(5), 90-102.

高橋悟, 石井晴子. 2013. 「授業の受益者は誰か: 日本の高等教育に求められる授業観の転換」『開発論集』91, 85-94.

映画作品

『ショーシャンクの空に』(*The Shawshank Redemption*). Dir.
Frank Darabont. Castle Rock Entertainment, 1994. Shochi-
ku Home Video, 2007. DVD.